

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	105人	算数	105人	理科	105人
第5学年	国語	111人	算数	111人	理科	111人

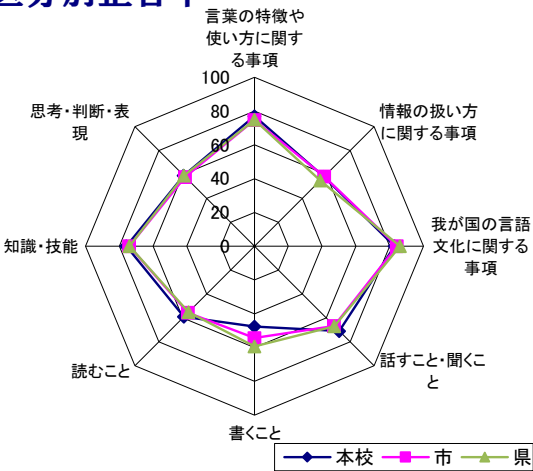
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.0	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	58.1	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	71.0	66.7	66.9
	書くこと	47.6	54.3	59.3
	読むこと	59.1	55.6	55.2
観点	知識・技能	75.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.2	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

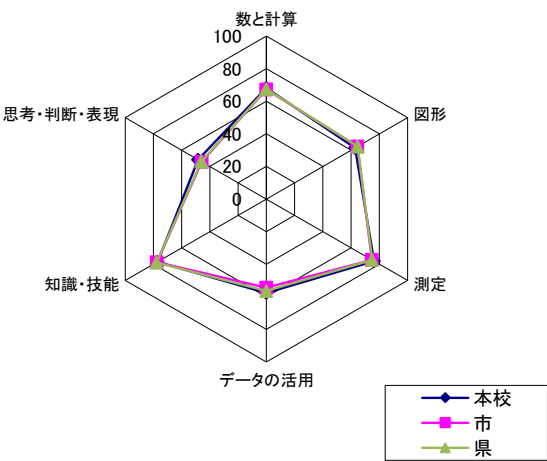
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○校内正答率は77.0%で、県の平均正答率を2.2ポイント、市の平均も2.3ポイント上回った。 ○漢字の読み書きについては、「鼻」を除き、いずれも県や市の平均正答率を上回った。3年生の漢字はしっかり身に付いている児童が多いと見られる。 ●「絵を見て、台詞の空欄に適する指示する語を選ぶ」問題の校内正答率が県や市の平均を下回っているため、こそあど言葉の使い分けが定着しきっていないことがうかがえる。	・朝の学習や家庭学習で国語の教科書の復習ページ、AIドリル等を使用しながら、既習の漢字を繰り返し練習する機会を設け、定着を図っていくようにする。 ・新出漢字を指導する際は、漢字の意味や熟語に触れながら、意欲的に学べるようにする。 ・指示語を意図的に授業で使っていくことでその言葉が何を指しているのか考えられる機会を増やし、指示語に慣らしていく。
情報の扱い方に関する事項	○校内正答率は58.1%で、県の平均正答率を3.1ポイント上回ったが、市の平均は0.3ポイント下回った。 ●無解答率が3.8%と県や市の平均無解答率を1ポイント以上上回っているため、例が示されていてもそこを読まずに諦めてしまう児童がいることがうかがえる。	・漢字辞典の使い方と比較しながら、国語辞典の使い方の復習をしたり、国語のみならず、ほかの教科や家庭でも国語辞典を活用し、正しい使い方が身に付くようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●「漢字のへんやつくりを理解している」設問について、校内正答率が県を3.2ポイント、市を1.4ポイント下回った。	・国語の「漢字辞典の使い方」の学習時、部首索引を活用する機会を多く設ける。 ・新出漢字を指導する際には、部首の位置や名前などの漢字の成り立ちを意識させ、知識を深める指導を行う。
話すこと・聞くこと	○校内正答率は71.0%で、県の平均正答率を4.1ポイント、市の平均も4.3ポイント上回った。 ○解答を選択するのではなく記述する問題では、無解答率が低いため、話を聞いて意図を理解する力が高いと予想され、それが正答率の高さにつながっていると考えられる。 ●「参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く」問題の正答率は3割程度のため、文脈に合った記述をすることが難しい児童が多いことがうかがえる。	・聞き手に要旨がしっかりと伝わるように話の内容を整理したり、言葉を吟味したりして話すことを意識させる。 ・相手の話を正しく理解できるように、メモを取る技能を高める指導を行う。
書くこと	●4つの提示された各条件全てにおいて県や市の平均を下回っており、無解答率も高くなっている。これは問題文全てに目を通さずに解答している可能性も考えられる。	・自分の考えや理由を表現する機会を授業中や宿題等で繰り返し取り組ませることを継続し、書くことへの抵抗感を下げながら的確な文章力を高められるようにする。 ・段落をつける意味や書き方等を指導し、正しい書き表し方を身に付けながら表現する力を育てる。 ・文章は必ず最後まで読んでから問題に取り組むことを徹底していく。
読むこと	○本文を読んで選択肢から正答を選んでいる児童は県や市の平均を上回っている。 ●「抜けている文を挿入する場所として適するものを選ぶ。」問題や「文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く。」問題では正答率が県や市の平均を2～3ポイント下回った。	・物語や説明文のどの段落でどんなことを言っているのか理解が図れるよう、文章の意味を考えさせたり、段落ごとの主旨を要約させたりして読む力を養っていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.1	67.3	67.4
	図形	62.7	64.5	64.7
	測定	76.2	74.7	74.9
	データの活用	57.6	54.4	56.4
観点	知識・技能	77.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	48.4	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

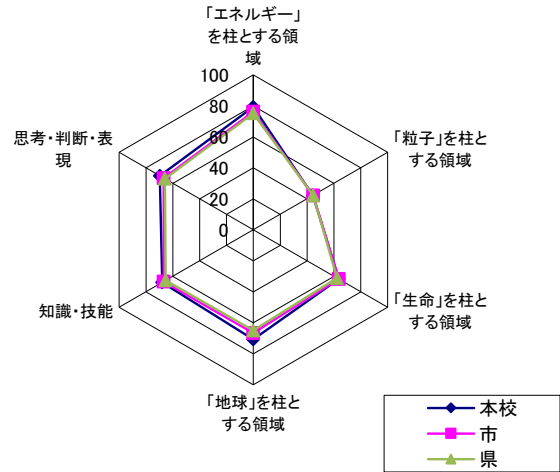
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の表す正しい大きさを答える問題では、正答率が県平均を10.1ポイント上回ってる。 ●3けた÷3けたの計算の問題では、正答率が県平均を9ポイント下回っている。	・図や文章題ではない、3けた÷3けたの計算問題を朝の学習や授業の始めに取り入れて、単純な計算能力の向上を目指す。
図形	●円の中心とコンパスの使い方について正しいものを選ぶ問題では、正答率が県平均を9.5ポイント下回っている。また、無回答率も県平均を4.7ポイント上回っている。	・朝の学習の時間などを使って図形に関するプリントを解いて定着を図る。 ・単元で図形に触れる時には、コンパスの使い方を確かめながら進める。
測定	○時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率が県平均を4.5ポイント上回ってる。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、正答率が49.5%となっていた。	・はかりの1目盛りの大きさに着目し、正しく読み取ることができるようにするために、朝の時間などを活用して、プリントなどに取り組ませる。
データの活用	●一つの棒グラフを読み取る問題では正答率が86.7%だが、それに対し1目盛りの数が違う2つの棒グラフを読み取る問題では正答率が28.6%と大きく下がっている。	・棒グラフの1目盛りの大きさに着目し、正しく読み取ることができるようにするために、プリントなどを用いて1目盛りの数が違う複数のグラフを使用する問題に取り組む時間を設け、基礎を定着させる。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	79.3	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	44.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	63.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	70.7	66.6	64.9
観点	知識・技能	67.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	69.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「電気が流れる、豆電球と乾電池のつなぎ方」を選ぶ設問では、正答率が93.3%と高く、県平均を5.3ポイント上回っている。 ●「鏡ではね返した日光を重ねたときの鏡の枚数と温度」の実験結果から適切なものを選ぶ設問では、県平均を上回っているものの、正答率が61%であり、課題が見られる。	・実験や観察に対して興味関心をもって取り組んでいる様子が見られるため、今後も年間指導計画に沿った着実な実施を心掛けていく。 ・様々な実験を行う中で実験の目的に応じた記録を自ら表したり、読み取ったりできるように指導していく。
「粒子」を柱とする領域	●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるか」を選ぶ設問では、県平均を4.4ポイント上回っているが正答率は14.3%と低くなっている。 ●「形を変えた粘土の重さ」について選ぶ設問では、県平均を3.8ポイント下回っている。	・観察したことを大切にしながらも、多様な見方を示し身近な生活の中の現象と結び付けて考えられるようにする。
「生命」を柱とする領域	○「モンシロチョウが食べるえさの量」を選ぶ設問では、県平均を8.7ポイント上回っている。 ○「アゲハチョウが卵を産みつける場所」を選ぶ設問では、県平均を13.4ポイント上回っている。 ●「虫眼鏡の正しい使い方」を選ぶ設問では、県平均を11.2ポイント下回っている。 ●「正しい草丈の測り方」を選ぶ設問では、県平均を9.7ポイント下回っている。	・今後も継続的に既習事項に触れながら授業づくりを進めていくと同時に、定期的に自主学習等での復習も奨励し、知識の定着化を図る。
「地球」を柱とする領域	○「温度計の正しい使い方」を選ぶ設問では、県平均を11.8ポイント上回っている。 ●「太陽の位置の変化」を方位で答える設問では、県平均は上回っているものの、正答率は47.6ポイントと50ポイントを下回っている。	・実験器具の使い方を確実に定着させるために、情報機器等を十分に活用しながら、児童の理解を深める。 ・実験や観察の結果から分かることをまとめたり、考察したりする活動を積極的に取り入れ、自力で記述ができるように指導していく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」について肯定的回答をした児童の割合は、74.3%で、県の平均を10.7ポイント上回っている。「家で、学校の授業の予習をしている」についても肯定的回答をした児童の割合は、64.7%で、県の平均を8.7ポイント上回っている。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的回答をした児童は86.6%で、県の平均を5ポイント上回っており、学習への興味・関心が高い児童が多いと考えられる。「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」についての児童の肯定的回答も61%と県の平均を4.8ポイント上回っており、学習にも様々な手段を利用し、真摯に取り組む様子が見え、今後教材や学習の進め方などを工夫し、よりよい学びの姿勢を身につけられるように授業改善を図る。

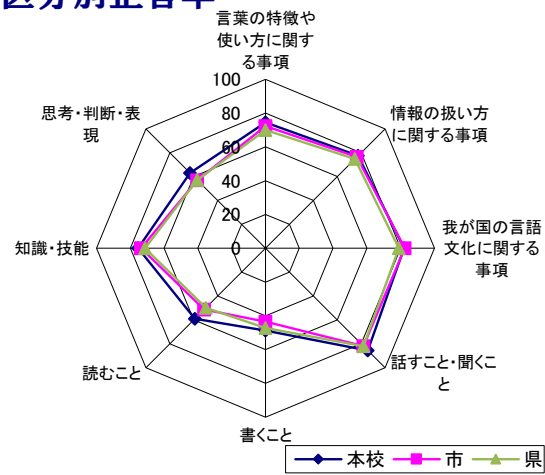
○「家の人としょく来のことについて話すことがある」についての肯定的回答をした児童の割合は、72.4%で県の平均を6.6ポイント上回っている。また、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」についての肯定的回答も88.6%で県の平均を4.8ポイント上回り、家庭での児童への関わりがきめ細やかであることがうかがえる。今後も児童の願いをよく理解し、よさを生かした指導をしていく。

●「自分は勉強が良くてできる方だと思う」の肯定的回答率は、59.1%で、県の平均を4.4ポイント下回っている。特に「はい」と答えた児童の割合は、16.2%と県の平均を9.4ポイント下回っている。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答をした児童の割合は、69.5%で県の平均を6.8ポイント下回っている。さらに、「自分の行動や発言に自信をもっている」について肯定的回答をした児童の割合も62.9%で県の平均を3.1ポイント下回っていることから、自分の力に自信がもてず、自分の考えを伝えることに苦手意識を感じる児童がいることがうかがえる。学習への興味・関心の高さや、熱心に学習に取り組む態度を生かし、機会を増やし励まししながら、自分の考えを自信をもって発表したり、友達の考えとの相違に気づき進んで伝え合ったりする態度を養っていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.5	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	77.5	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	82.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	85.6	81.9	82.0
	書くこと	48.7	43.5	47.2
	読むこと	59.1	51.4	49.8
観点	知識・技能	75.4	73.6	71.3
	思考・判断・表現	63.1	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

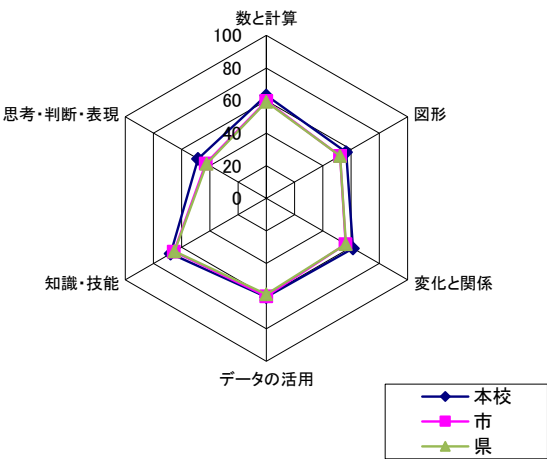
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は74.5%で、県の平均を4.5ポイント、市の平均も2.2ポイント上回った。 ○「漢字を書く」問題においては、正答率は県と市の平均を上回っている。第4学年の漢字の書きは定着している様子が見られる。 ●言葉の学習の連用修飾語についての理解は、県の平均を9.7ポイント下回っている。	・既習漢字の習得については朝の学習や家庭学習の課題とし、教科書にある前学年までの漢字の復習ページを活用し、さらなる知識の定着を図る。 ・国語辞典や学習用パソコンを活用し、分からない言葉が出てきたときにはすぐに調べ、語彙を増やす機会を設ける。 ・読書を励行し、いろいろな文章に触れることで、言葉同士の関係を考える機会を増やす。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は77.5%で、県の平均を2.6ポイント、市の平均を1.1ポイント上回った。 ○「漢字辞典の使い方」は、県の平均を2.6ポイント上回った。	・調査結果の読み取りでは、大切な文や語句などの情報に着目させるとともに、段落相互の関係を押さえる学習を、授業の中で繰り返し指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は82%で、県の平均を3.1ポイント上回った。 ○「文章を読み、適切なことわざを選ぶ」問題において、平均正答率が82%で、県の平均を3.1ポイント上回った。	・ことわざや慣用語などの意味を調べる活動を取り入れ、それらを用いることのよさに気づき、積極的に使うことができるようにする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は85.6%で、県の平均を3.6ポイント、市の平均を3.7ポイント上回った。また、4つの設問の全てで県や市の平均正答率を上回った。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめる」問題では、77.5%と県の平均正答率を7.6ポイント上回った。	・話し合いの単元や、他の教科、学級活動の時間において、共通点や相違点を意識しながら話を聞いたり、話したりする活動を積極的に取り入れ、話し合いの進め方を身に付けられるようにする。 ・話の中心を考えながら聞いたり、自分の意見を相手に伝えたりする機会を増やす。
書くこと	○平均正答率は48.7%で、県の平均を1.5ポイント、市の平均を5.2ポイント上回った。 ●県・市の平均と比べると、同程度か上回っているが、他の領域と比べると苦手としている児童が多い傾向がうかがえる。 ●4つの設問全ての無回答率をみると、24.3%となっている。	・テーマや字数など、与えられた条件で文章を書く機会を設けることで、書く活動に日常的に取り組んでいく。 ・理由を挙げながら自分の考えを書く訓練を積み重ねていく。 ・2段落になるように構成を考えて文章を書く訓練を重ねていく。 ・日記の課題を通して、文章表現する力を養う。
読むこと	○平均正答率は59.1%で、県の平均を9.3ポイント上回った。市の平均も7.7ポイント上回っている。 ○「登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉える」問題では、本校正答率は県の平均を14.7ポイント上回っている。 ●「登場人物の性格について、具体的に想像する」問題や「叙述を基に文章の内容を捉える」問題では、他の項目と比べると正答率がやや低い。	・説明的文章の読解においては、中心となる語や文に着目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして、内容を理解させていく学習を継続して丁寧に行っていく。また、段落ごとの読み取りをした後、段落相互の関係も捉えられるようにしていく。 ・文学的文章の読解においては、登場人物の気持ちを表す語や文を見つけたら、それらをもとに気持ちを考える学習を継続して行っていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.2	59.7	59.2
	図形	56.5	52.1	52.1
	変化と関係	61.3	56.1	56.3
	データの活用	60.6	60.1	58.9
観点	知識・技能	67.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	48.5	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

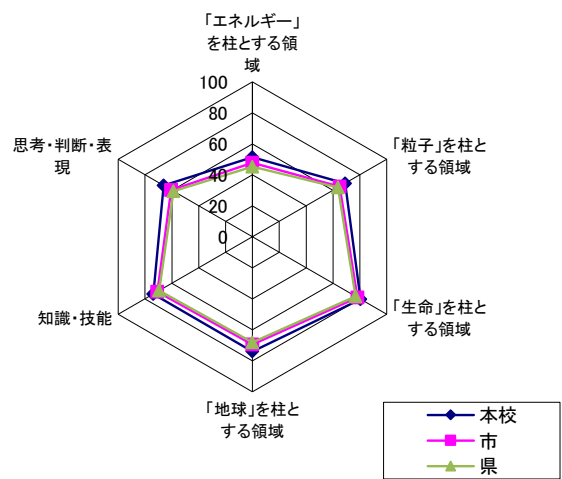
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の正答率は、県の平均正答率を4ポイント上回った。特に、「小数を集めた数を答える」問題では、本校の正答率は94.6%と高く、小数のしくみを理解している。 ●「目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ」問題では、25.2%と本校の正答率は低い。	・Aドリルなどを活用し、繰り返し復習して確実に既習内容が身に付くようにする。 ・他教科の学習場面や新聞記事などで概数を読み取ったり自らが概数を用いたりする場面を設けるなど、概数を日常生活に生かすようにする。
図形	○本校の正答率は、県の平均正答率を4.4ポイント上回った。「三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ」問題では、県の平均を11.9ポイント上回った。 ●「面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数を答える」問題では、本校の平均は32.4%と低い。	・図形の学習では、公式を覚えて計算で面積を求めるだけでなく、1cmの正方形など既習の図形を基にして面積の求め方を考えたり説明したりする活動を多く取り入れる。
変化と関係	○本校の正答率は、県の平均正答率を5ポイント上回った。 ●「伴って変わる2つの数量の関係について、表をたてに見て分かることを説明する」問題では、本校の正答率は38.7%と県や市の平均を上回っているが決して高い数値とはいえず、3割の児童が無回答であった。	・他者に分かりやすく説明する力を身に付けるために、数値と数値を関連付けたり、関係が簡潔・明瞭に伝わるような表現方法を工夫したりする活動を取り入れる。 ・具体物を用いて見通しをもたせたり、イメージをさせたりする活動を取り入れ、算数的な感覚を養う。
データの活用	○本校の正答率は、県の平均正答率を1.7ポイント上回った。「2つの折れ線グラフからわかることとして正しいものを選ぶ。」問題では、本校の正答率は57.7%で県や市の平均を上回った。 ●二次元表の読み方を理解しているかどうかをみる問題では、本校の正答率は26.1%と県や市の平均を上回っているが決して高い数値とはいえず、およそ3割の児童が無回答であった。	・計算問題だけでなく、目的に応じてデータを集めて分類する問題や、データの特徴や傾向に着目して問題を解決する機会を増やす。 ・課題意識をもち、資料内容理解ができるように、学習体験との関連を図りながら、引き続き普段の生活の中でもデータの活用を行う場面に多く触れるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	51.4	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	69.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.5	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	74.0	69.5	68.1
観点	知識・技能	73.8	70.8	69.5
	思考・判断・表現	66.2	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は51.4%で、県や市の平均を上回った。 ○実際に実験等を通して学んだことが、知識として定着している。 ●「簡易検流計の針のふれ方」についての問題では、県や市の平均は上回っているが、正答率が29.7%と約3割の正答率である。実験道具の使い方や役割についての理解が低いと考えられる。	・実験や観察の結果を考察させたり、結果から考えたことを自分の表現で文章化させたりする活動を取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は69.0%で、県や市の平均を上回った。 ●「金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化」についての問題で、県や市の平均を下回っている。	・日常生活と関連させて、身近な問題として考えられるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は80.5%で、県や市の平均を上回った。 ●「季節や気温の動物のようす」についての問題で、市の平均を1.9ポイント下回った。	・季節の変化に着目し、それらを関係づけて調べる活動を取り入れ、生命の連続性について理解を図る。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は74.0%で、県や市の平均を上回った。 ○「雨水の行方と地面のようす」以外のすべての問題において市や県平均を上回っている。 ●「雨水の行方と地面のようす」についての問題で、市より0.7ポイント低い。	・土の粒の大きさと水はけの関係を明らかにするために、自分なりの根拠をもって説明できるように授業を展開していく。 ・学習と実験の目的を把握させ、課題解決を見取って、自分なりに予想を立て、既習の内容と照らし合わせながら検証していく過程を大切にする。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」について、肯定的回答をした児童の割合が、97.3%と非常に高い。また、「家で、学校の予習をしている」や「家で、学校の復習をしている」の質問項目についても肯定的回答をしている児童が6割を超えており、自分に必要な学習内容を工夫しながら取り組むなど、家庭での学習習慣の定着が見られる。

○家庭での学習の取り組み方については、平日の学習時間が1時間以上である児童が83.5%で、県の平均を30%近く上回っており、学校で掲げる家庭学習時間の目標は達成しているものと思われる。

○授業の中での話し合い活動については、進んで参加している児童が、78.4%で、県の平均を2.1ポイント上回っている。また、クラスで話し合い活動をよく行っていると回答している児童も、全体の約90%と活発に話し合い活動を行っている様子が窺える。

○教科の学習は、将来のために必要だと思っている児童の割合が90%を上回り、学習意欲の高さが窺える。

●「授業で自分の考えを文章にまとめることはむずかしい」について、肯定的回答をした児童は、53.1%と県の平均を約7%下回っており、文章を書くことへの抵抗がある児童は平均よりも少ない状況が窺えるが、今後も作文や日記などを通して、文章を書くことへの抵抗感をさらに減らしていけるよう取り組んでいきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」について、肯定的回答をした児童は54%で、県の平均を8.9ポイント下回っている。反面、自分のよさを人のためにいかしたい、自分も持っている能力を十分発揮したいと思っている児童が多い。このことから、人のために役に立ちたいという意欲を尊重し、具体的な場面で称賛したり、その行動がどのように集団の中で意味をもっているのかを実感させたりして、自己肯定感を高めていきたい。また、自分が役に立っていると思えるような言葉かけが飛び交うような雰囲気作りに取り組んでいきたい。

宇都宮市立戸祭小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成 ・児童が納得と達成感を得られるための算数授業の工夫 ・すべての児童が発言できる学習形態の工夫	・課題を提示する際には、全員が理解できるような表現にすることで見通しをもたせ、授業で何をすれば良いのかを明解にする。 ・伝え合う活動の充実によって児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設定し、考えを深められるようにする。 ・誰かが話しているときには自分の考えと合う合わないに関係なく最後まで聴くことを徹底していく。 ・全体への発表という形式にとらわれずに児童同士が話し合える時間を確保する。	・質問紙の「授業の中で、目標が示されている」と「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について、5学年では肯定的回答率が県・市の数値を上回っているが、4学年は若干下回っていた。 ・質問紙の「クラスは発言しやすい雰囲気である」について、両学年ともに肯定的回答率が県・市の数値とほぼ変わらなかった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
両学年ともに質問紙の「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と肯定的に回答した児童が5割程度だった。	すべての児童が自分の考えや意見を発言できる学習形態の工夫	・誰かが話しているときには自分の考えと合う合わないに関係なく最後まで共感的に聴くことを徹底していく。 ・全体への発表という形式にとらわれずに児童同士が話し合える時間を確保する。 ・正答か否かに関わらず自分で考えてそれを表現することの重要性を、全職員同一歩調で児童に伝えていく。